

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@swany.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

105号

『2・11』 平和を考える日

＜『2.11』 平和を考える日』とは＞

明治政府は、紀元前660年の旧暦の元日に神武天皇が即位したとし、1874年から2月11日を日本の国が建国された日＝「紀元節」として制定しました。「紀元節」が国民に浸透していったきっかけは、1889年2月11日に大日本帝国憲法が發布されたことからです。祝日であったその日に、生徒たちは登校を義務づけられ、ものものしい儀式に参加させられました。講堂に整列させられ、校長の読み上げる「教育勅語」を頭を下げて拝聴し、その後「君が代」や「紀元節の歌」を斉唱させられていました。この儀式が毎年繰り返されることによって、国民の頭が洗脳されていき、時の政府の推進するどのような行為・宣伝も是とし、侵略戦争も「聖なる戦い」として受け入れるようになっていったのです。この血塗られた「紀元節」は戦後1949年に廃止されたのですが、1967年に「建国記念の日」として復活します。

1967年以降、日本政府が行ってきた政策の数々（「国旗国歌法」「教育基本法改悪」「安保関連法」「共謀法」など）や行おうとしている「辺野古新基地建設」「憲法改悪」などの動きをみれば、国家主義・軍国主義・天皇主義が再び頭をもたげようとしていることは明々白々であります。私たちは、人権が蹂躪され、平和が脅かされる時代が再び来ることがないように、この2月11日を「平和を考える日」として位置づけ、様々な取り組みを行ってきました。

そこで、今年度は、「原発」をテーマに、3人の東日本大震災の被災者の方々からお話を聴くことにいたしました。国家施策として推し進めてきた「原発」の問題を私たち自身の課題として、どのように受け止め、考え、行動していくのかの思いを共有するために、是非、3人のお話を読んでいただきたいと思ひます。皆さまはどのようにお考えになりますでしょうか。(平田義)

▼鈴木匡さんのお話

(放射能市民測定所たむら市民ネット代表世話人)

原発事故後、日本のメディアは「忖度」していますから、こうして原発の話ができる機会は貴重です。

2006年12月に共産党の吉井議員は「地震や津波によって福島第一原発の外部電源も消失するのでは?」と指摘。当時の安倍総理大臣は「電源が喪失する事態が発生するとは考えられない」「安全の確保に万全を期している」と答えていました。予兆はあったんです。

いわゆるチェルノブイリ法では、年間被ばく線量が5ミリシーベルトは強制的にその地域から移住する基準であり、1ミリシーベルト～5ミリシーベルトは「移住の権利がある」とされています。日本も、かつては年間被ばく線量の基準は1ミリシーベルトでしたが、福島第一原発の事故後は20ミリシーベルトに引き上げられました。引き上げないと「戻れない」からです。

2.11 平和について考える日
～福島原発事故を風化させないために～

日時:2月11日(月) 10:00-12:00
場所:野の百合保育園ホール
参加費:無料
講演:鈴木匡さん 匡さん・高木久美子さん

プログラム

第1章
10:00-10:05: 開会・2.11とL&P表明
10:05-10:20: 子ども向けプログラム
【内容】 歌「迷ひとほくのあいだに」
読本「ぼつれんぞうは泣いています」

第2章
10:20-10:50: 鈴木匡さん講演
10:50-11:20: 高木久美子さん講演
11:20-11:50: 鈴木匡さん講演
11:50-12:00: 質疑応答・閉会の挨拶

●講演者について
●会場について
●申し込みについて
●お問い合わせ先

お問い合わせ先: 放射能市民測定所たむら市民ネット
TEL:075-621-3849
FAX:075-621-1579
E-MAIL:www.airinkan.net

「水俣」はご存じだと思いますが、この「水俣」と「福島」には共通する手口があります。例えば、世論を混乱させて「賛否両論」に持ち込み、被害者同士を対立させ、大きなイベント(東京五輪)を仕掛けて忘れさせようとする。被害者を疲弊させて、諦めさせる魂胆もあります。福島でも「もういい」と区切りをつける方もいらっしゃいます。認定制度をつくって、被害者数を絞り込むこともいつもの手口です。ADR(裁判外紛争解決手続き)が機能しているとも言い難い。

私たちは独自に福島県内の土を調査しています。そこで、とある場所の土が黒いことに気づきました。放射線量を測るとものすごく高い。さらに分析すると「シアノバクテリア」が高い線量を放っていて、黒い物質の正体でした。放射性物質を吸収しているのです。地球が誕生して、有害なガスを微生物が取り込み、有酸素動物が生活できる環境をつくってくれたように、今も地球環境を守ってくれているんです。

産業革命以来150年、生命個体数は半減したとも言われています。私たちはゆっくり自分の首を絞めているのかもしれない。自然の叡智、神様の叡智、宇宙の叡智を感じて日々の生活を送ってほしいです。

▼高木久美子さんのお話 (笑顔つながろう会代表)

私は東日本大震災から1年後に向島に避難してきました。もう7年。小さかった子どもたちも大きくなりました。親としての不甲斐なさを感じつつ、子どもたちは本当によく頑張ってくれていると思います。

私の住んでいた、いわき市は震度6弱、津波の最高到達点は8.5メートルでした。海から1キロ程度の場所でした。近所で亡くなった方もいらっしゃいます。

2011年の3月下旬から私は仕事に復帰し、4月には学校が再開しました。4月下旬に「安全宣言」が出され、みんながマスクをパパーッと外したことを覚えています。「本当にこれでいいの?」という気持ちはずっとありました。復興のための地産地消と言われても気が晴れませんでした。学校では運動会に向けて子どもを校庭で走らせる。もう心配で心配で…。

「今さら避難?」という雰囲気はありました。原発事故によって、家族や友人が分断されることも経験しました。最終的に私の背中を押したのは「土壌汚染は免れない」という事実でした。

京都にきて、洗濯物を外で干せるのが嬉しかった。自分の気持ちが回復していくことを感じました。ただ、この向島で避難者が何人いらっしゃるのかも分かりませんでした。「つながらないと京都ではやっていけない」と考え、2012年7月に「笑顔つながろう会」を立ち上げました。

2014年1月に「MJ」が誕生し、「笑顔つながろう会」も、お裁縫会を始めました。これまで通算53回、雑談の中で悩みを分かち合ったり情報交換したり、本当に貴重な場所です。他にも、資金を貯めて京都の食材を福島に送ったり、原発事故を風化させないことも、「笑顔つながろう会」の大事な取り組みです。

原発の再稼働だけはやめてほしい。安倍総理に会いたい。どうしたらこの国の健康や命が守られるか。伝えたい。「民意を動かすしかない」なら、「普通の」親が立ち上がらなければいけないと思っています。



↑たくさんの方々にご参加くださいました

▼鈴木絹江さんのお話 (NPO法人ケアステーションゆうとぴあ理事長)

もうすぐ68歳。今日は振り返ってみます。どのように生きてきたか、どのように生きていきたいか。

養護学校卒業後は刺繍の会社に就職しましたが、失敗すると「バーン」と叩かれる厳しい会社でした。身体を壊して辞めました。大きな挫折でした。自分の力で生きていくことが、たったひとつの親孝行だと思っていましたから。

力の強い者に屈服し、長いものにまかれる生き方に絶望していました。そんなとき、障がい者運動が活発になり、「青い芝の会」に影響を受けました。衝撃的な自己肯定感というか、アイデンティティを見つけたような。でも、次第に運動は「作業所をつくる」ことに方針転換していった。「違おうだろう」と。「私たちは社会を変えていくんだろう」と。

結婚当初は水道もガスも電気もない、「ランプ生活」でした。当時流行っていた「北の国から」みたいな生活。澄み切った青空に美味しい井戸水。「全部」ありました。それでも、当時住んでいたいわき市の福祉のことはずっと考えていました。紆余曲折を経て、自分で福祉事業所を立ち上げました。

原発事故は「自分の生き方が問われている」と思いました。このままでは死ぬかもしれない、という恐怖。なにひとつ変わらない。放射能は臭いも色もない。だからこそ悪魔のよう。本当に腹が立ちました。失われていく、奪われていく福島。でも、とっくの昔に奪われていたんです。

事業所の方針としては「避難する人も残る人も支援する」。調整に震災から2年半か

かりました。どん底の日々。誰にこの想いをぶつけていいのかわからない。4回も救急車で運ばれました。「このままでは死んでしまう」ということで京都に引っ越してきました。

2016年12月に梅干しくらいのコブが見つかりました。甲状腺がんです。「なぜ自分が？」でした。「嘘でしょ？」って…。

目の前の小さなことに一生懸命生きてきた、障がい者のために命をかけてきました。でも、「原発」には一人で立ち向かえない。「お前のやり方では足りない」と言われているような、「この世の宿題」はまだ残っています。

私は病気を自分の力で治していく道を選びました。もしかしたら、この病気が私の悪い部分を引き受けて、私を生かそうとしてくれているのかもしれない。地球にとって人間の存在も「がん」のようなものかもしれない。元々は「良き隣人」だったはず。一人ひとりが生き方を問い直し、隣人のために生きていきましょう。争いでは解決しません。話し合ひましょう。愛という花をテーブルの真ん中に置いて。

(報告：出口剛史)

柏木正行さんの
魂に触れる

戦争

戦争が近付いているのです
誰かが
戦争を始めようとしているのです
国民から税金を搾り取り
戦闘機や軍艦を造って
一儲しようとして企んでいるのです
自分の国で使わなくても
輸出すれば儲かるのです
百台の車椅子よりも
一機の戦闘機の方が
高く売れるのです
三十人の人間の命よりも
一隻の潜水艦の方が大切なのです
軍隊は
誰が
何のために造ったのですか
国を守るためですか
人間に
人間を殺させるためですか
沢山の武器を買わせるためですか
それで儲けているのは
何処の誰ですか

(再掲)

2018年12月、2019年1-2月行事報告

- 12/08 デイケア・シサムクリスマス会
- 12/23 元気バザール 次回は3/24です！お楽しみに！
- 12/24 『愛隣』クリスマス会
- 12/28 デイサービス忘年会
- 01/14 「済州4・3事件に学ぶ」京都から「4・3事件」を考える
- 01/21 2.11事前合同学習会
- 01/28 普通救命講習
- 02/10.14.24 喀痰吸引等第3号研修(基礎研修)
- 02/11 2.11平和集会「福島原発事故を風化させないために」
- 02/16 「みんな食堂」(いも煮&タイのお菓子) マイタウンMJにて
こどもを中心に、障がいのある人もない人も、年齢も国籍も関係なく、
広い意味での多文化共生をねらいとした出会いの場に！
- 02/17-20 アジア国際夏期学校 済州島セミナー
- 02/23 法人京都ブロック 東九条研修



「みんな食堂」こどもたちとクッキングで交流です！↑

3・11メモリアルキャンドルinむかいじま2019

「慰霊と復興・平和への願いを込めて」

「支え合う！励まし合う！喜びを分かち合う！今の足跡を未来へつなぐ。」

▼3月5日(火)～10日(日)10:30～16:00

川内村の仮設住宅での暮らしの記録。

原発賠償京都これまでの歩み。福島のがた飛田晋秀写真展。

▼3月8日(金)13:30～15:00

避難所HUG(Hinanzyo Unei Game)。避難所を模擬体験するゲーム。

▼3月9日(土)13:30～15:45 お話会

「認めて避難の権利！ 福島原発事故避難者訴訟について」 井関佳法さん

「原発事故から八年、被災者の生活再建とは」 志田篤さん

▼3月9日(土)18:00～19:00 キャンドル点灯 3.11にかたどって点灯。雨天は翌日順延。

* 場所:マイタウン向島(向島ニュータウンセンター商店会内)

キャンドルは、向島ニュータウンセンター広場(京都銀行向島支店前)にて行われます。

ご支援ありがとうございました

今年度も多くの皆様に支えられて活動を続けていくことができました。

今後ともよろしくお願い致します。

感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。

愛隣館研修センターを

支えて下さった方々

《月定会員》

荒木啓子, 稲木友美, 伊吹恒二・寛子, 浦由佳里, 奥間早登子, 大谷優子, 岡田友香, 金山秋義, 君村千代子, 木村美由紀, 木村耕, 北園由希子, 菊地義則, 坂田明子, 櫻恵子, 仕田中萌子, 塩谷幸代, 田中晁・千栄, 刀根史恵, 中島雅子, 西手芹香, 西村美枝子, 林栄子, 福田尚子, 前川有紀, 松井實・知恵, 松野正信・清美, 松浦良枝, 水本三玲, 森あかね, 安野喜仁・優美, 山下亜希子, 山崎希充子, 藪内みのり

《指定献金(夏期特別、クリスマス、年会費)》

郵便振替(個人): 赤阪仁, 李国本修慈, 池添素②, 梅田健也, 岡本宣雄②, 織田雪江, 山口政紀(リソノ電気), 加治木政子②, 片岡哲司, 上川正, 川田よしみ, 川中大輔, 神谷友之・恭子, 賀川一枝, 喜多明子②, 北野井一恵・智恵子・暁②, 木村貴②, 岸野修三, 黒田絢, 小久保正, 近

藤孝子, 後藤一志②, 五藤薫子, 清水元介②, 清水悠介, 菅令子②, 鈴木英子, 杉原輝明, 高橋秀幸②, 武澤信夫・直子, 高木恵子, 竹内富久恵, 刀根史恵②, 富増献児, 銅銀正美②, 難波幸矢, 中西静子, 中西仁美②, 長尾文雄, 永島鉄雄, 丹羽克吉, 野島正光・共子②, 樋高知子, 富士定夫②, 藤田早紀, 本田桃子, 朴実・清子, 増田みち子, 黛正, 間淵史子・泰司, 丸山澄夫, 宮本真希子②, 村岸富美枝②, 村田稜太②, 森田和子②, 藪中利光・翔太②, 山内恵美

その他寄附金(個人): 青木理恵子, 齊賢司, 榎本てる子, 奥田美代子, 岸野修造②, 菊地義則, 君村千代子, 後藤まちこ, 小中謙吾・福田竜一・宮坂亜矢子, 下野環, 高木春美, 坪内徹・弘美, 寺本喜宥②, 中西静子, 丹羽克吉, 羽田野英子, 畠田知佳, 橋本求, 平井啓之②, 樋口和哉, 藤田早紀, 藤原由美子, 松田めぐみ, 松田美枝②, 松井實・知恵, 溝口修造・智之②, 安野喜仁・優美②, 匿名④

郵便振替(団体): アクティブ

ケイ, 愛之園保育園, 一麦保育園, 希望ヶ丘教会, 啓明学院, 甲子園二葉幼稚園, 神戸栄光教会, 神戸教会, 夙川東教会, 城陽教会, 宝塚教会, 同志社中学校・高等学校, 同志社女子高等学校, 同志社中学校, 西宮一麦教会, 西小倉めぐみ教会, 原宿教会, 枚方くずは教会, 光の子保育園 P T A, 丸太町教会, みどり野保育園, 室町教会, 友愛幼児園, 洛陽教会

その他寄附金(団体): 5街区(黒多), NAの会, Pink cherubic, 伊藤珠算教室, 新婦人の会, 新婦人の会コスモス, 住みよい向島を作る会, 空の鳥会, 伏見民商ニュータウン支部, 向島日本語教室, 世光保育園, よろず屋

(2,965,369円 178口)

2019年2月26日現在敬称略

尚、記入に際しましては万全を期しておりますが万が一記載漏れがありましたらご一報ください。

★編集後記★
▼みなさまからの
ご意見・感想お待ち
しています(´▽`)
▼辺野古新基地
建設の賛否を問
う沖縄県民投票
が行われた方約
71%以上の方が
基地建設反対の
意思を表しました
「結果を真摯に
受け止める」と
発言したのが、選
挙の翌日も辺野
古の海への土砂
投入は変わらな
く続けてきてい
ることを憂えて
いる人々の特
集した原稿の特
題も「今号で
る」今こそ、愚
弄された怒りを
露わにすべき時
が来ていると感
じている(ひ)
き出さねば、将
来に禍根を残す
ことになる(ひ)